

垂水1号 (たるみずいちごう)

育成者：鹿児島県果樹試験場（現、鹿児島県農業開発総合センター果樹部；鹿児島県垂水市本城 1452）
来歴：台湾から導入されたものの中から選抜

育成地：鹿児島県熊毛郡屋久島町（鹿児島県果樹試験場屋久島試験地；現、鹿児島県熊毛郡屋久島町果樹園）

特性

■栽培特性

タンカン是中国広東省の北部が原産の亜熱帯性カンキツで、マンダリンとスイートオレンジの雑種に由来していると推定されている。栽培適地は年平均気温が17.5～20℃、冬季の最低気温が-1℃以上の地帯である。樹勢は中程度で、樹姿は若木の時は直立するが、成木になると開張してくる。枝梢は比較的そう生し、細くて短い。トゲの発生はほとんどなく、葉はやや小型で翼葉はない。定植後2～3年は支柱への誘引や主枝候補枝以外の芽かき、間引きなどにより樹の骨格を作り樹冠拡大を図る。

発芽期は育成地で2月下旬～3月上旬、開花期は4月上～中旬で温州ミカンよりやや早い。着花性はよく結果年齢に達するの早い。花粉は稔生であるが単為結果性があり、無核果が多く有核果でも種子が少ない。結果性がよく着果過多になりやすいため、連年結果させるには十分な摘果と肥培管理が必要である。

■果実特性

果実は170～200g程度で、タンカンの中では大きい。果形は扁球形で、果梗部は平面である。果皮は橙色、滑らかで薄く、はく皮性は中程度で特有の香りがある。じょうのう膜は薄く、果肉は砂じょうが細く柔軟多汁、でほとんど無核である。糖度は11～13%、クエン酸含量は0.7～0.9%程度で風味は極めてよく、色、味、香りを備えた果実である。成熟期は育成地で2月中～下旬であり、収穫は2月上旬から始まり、出荷は2月中旬から貯蔵後3月まで行われる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

かいよう病やそうか病には強い。枝梢が密生し、樹冠内部に枯れ枝を生じ黒点病が発生しやすいため枯れ枝を除去する。果実品質向上のため整枝・せん定や縮・間伐により樹の日照条件をよくする。

樹上で果実を越冬させるため冬季温暖な場所を選んで植栽し、寒風害や台風対策として防風樹を整備する。植栽後2～3年は樹冠拡大のため全摘果し、4年目頃から着果させる。着果量が多いと冬季の落葉が多くなり、樹勢が低下し隔年結果を誘発するので、葉果比が100程度の適正着果量にし、土壌改良など肥培管理を徹底し、樹勢の維持につとめる。また、収穫してから発芽までの期間が短く、貯蔵養分の蓄積や樹勢回復が不十分であるため、年間を通して肥料切れを起こさないように管理する。

■地域適応性

栽培に適した地域は、九州南部沿岸の冬季温暖地や種子島、屋久島、さらに奄美大島、沖縄などの南西諸島である。

（立田芳伸）